

日本社会開発基金 (JSDF)
年次報告

2003 年度



世界銀行

譲許性資金 グローバルパートナーシップ総局

日本社会開発基金（JSDF）

2003 年度 年次報告



世界銀行

譲許性資金・グローバルパートナーシップ総局

JSDF 運営委員会
委員長からのメッセージ



日本社会開発基金（JSDF）は、途上国で最も貧しく、社会的進歩から最も取り残された人々に直接かつ集中的に支援を行う効果的なグラント・ファシリティとして登場し、今年で創設3年目を迎えました。JSDFはそもそも、1990年代に東アジアを襲った経済危機の社会的影響緩和を支援する目的で日本政府の拠出金により創設されましたが、今では世界中の途上国にグラントを供与しています。JSDFは世銀案件と平行して進められており、シビル・ソサエティ組織および社会的に弱い立場におかれたグループのキャパシティ・ビルディング、参加とエンパワーメントの促進を目的とする革新的なプログラムを支援しています。

2003年度は15件のプロジェクトおよびキャパシティ・ビルディングに対し1600万ドル以上のグラントが承認され、JSDFの拠出額は69件のグラントに対して7500万ドル以上になりました。JSDFの活動が大きな意義を持っていることは、多くの好ましい成果にはっきり表れています。例えば、スリランカのある貧しい母親は職を失って途方に暮れていましたが、訓練を受けて、今では現地プロジェクトを推進する地域担当者として活動し、かなりの年収を得ています。9人兄弟の一人であるヨルダン人少年（14歳）の家庭では、父親がアルコール中毒で、母親は家政婦として働いています。街の不良少年グループに入りスリを働いて生き延びてきましたが、「危機的状況にある子供たち」にメンタリングや職業訓練を行うグラントを受けて、今では自動車修理工として自活できるようになりました。中央アフリカ共和国では、AIDSに侵された男性の家族は訓練を積んだ医療従事者による在宅ケアの援助を受けて、JSDFの支援で菜園を始めました。ほかにも、JSDFの活動が時間と共に実を結んだ事例は数多く、JSDFが貧しい人々の生活に重要な役割を果たしていることを実証しています。

今年もJSDFは進化を続けました。アフガニスタン特別支援の中からアフガニスタンに初の本格的金融機関を設立するためのグラントが承認されました。このグラントにより、金融サービスの運営・提供についての

訓練に加え、1万件を越える小口融資を実施できるようになるでしょう。グラント準備を参加型のものとするため2002年度に設立されたJSDF シード基金の利用件数は、前年度の2件から20件に増加しました。社会的進歩から取り残された人々やNGO、CSO、地方自治体などJSDF グラントの受益対象者をグラント・プロポーザルの設計と準備に参加させ、協討議する方式を採っていることから、グラント活動への取り組みがより主体的かつ持続可能なものとなっています。

2003年度は現地関係者の熱心な参加と支援が特に際立っていました。JSDF グラントが成果を挙げているのを受け、政府やNGOがグラントの拡張を支援するケースがみられたのです。たとえばブルガリアでは、児童育成・貧困地域支援プロジェクトの下で児童育成資金配分の完了にあたり、プロジェクト活動を拡大するためにほぼ同額の資金が国の予算から拠出されました。インドネシアでは、JSDF 未亡人と貧困対策プロジェクトが紛争地域の母子家庭支援に大きな効果を挙げたので、政府は資金を拠出してこのプロジェクトを他地域にまで拡大しました。ヨルダンでは、教育省が危機的状況にある子供たちを対象としたJSDFによる学習パイロット・モデルを採り入れています。いずれも、比較的新しいこのグラント・プログラムの触媒効果を実証するものです。

JSDF は当初から、世銀融資の枠を越えて貧困層の中でもとりわけ貧しい人々に効果的に働きかけることを目指してきました。3年目に入った今年の実績は、プログラムがこの目的に沿って進められており、持続可能な進歩の達成にはプロジェクトの影響を最も受ける人々の建設的な関与が欠かせないことを裏付けるものです。この機会をお借りして世銀およびグラント受領者を代表し日本政府の継続的かつ寛大なる配慮に感謝申し上げます。

アリフ・ズルフィカー
世界銀行信託基金業務局長 兼
JSDF 運営委員会委員長

目次

JSDF 運営委員会 委員長からのメッセージ	ii
略語	vii
第 1 章：JSDF の概要	1
背景	1
プロジェクト向けグラントおよびキャパシティ・ビルディング向けグラント	2
2001～2003 年度の活動	3
第 2 章：2003 年度の活動概要	6
3 年目の JSDF 活動	6
地域別配分	7
セクター別配分	8
JSDF シード基金	9
アフガニスタン特別支援	9
第 3 章：主な JSDF グラント	12
ベトナム：北部山岳部貧困削減プロジェクト	12
インドネシア：未亡人と貧困対策プロジェクト	14
スリランカ：村落自助学習イニシアティブ	17
ヨルダン：危機的状況にある子供たちの社会の本流への統合	20
中央アフリカ共和国：コミュニティ・レベルでの HIV / エイズ戦略強化	22
ブルガリア：児童育成・貧困地域支援プロジェクト	24
第 4 章：ガバナンスの仕組み	26
付表 1：2003 年度に承認された JSDF グラント一覧	29
付表 2：2003 年度に承認された JSDF シード・グラント一覧	31
付表 3：2004 年度方針文書	32
付表 4：2001～2003 年度の JSDF グラント地域別配分	36

図一覧

図 1：2001～2003 年度に承認されたプロジェクト向け グラントとキャパシティ・ビルディング向け グラント	3
図 2：種別別年度別の JSDF グラント	3
図 3：地域別年度別の JSDF グラント	4
図 4：2001～2003 年度における JSDF グラントの 地域別配分	4
図 5：2001～2003 年度における JSDF グラントの セクター別配分	5
図 6：2003 年度における JSDF グラントの セクター別配分	8
図 7：2003 年度に承認された地域別シード・ グラント件数	9

表一覧

表 1：2003 年度に承認された JSDF グラントの 地域別配分	8
---------------------------------------	---

AFR	アフリカ地域
AIDS	エイズ（後天性免疫不全症候群）
AKFED	経済開発 SA のためのアガ・ハーン基金
APL	アダプタブル・プログラム・レンディング
CAS	国別援助戦略
CAR	中央アフリカ共和国
CBO	地域を基盤とした組織
CDD	コミュニティ主導型開発
CFP	譲許性資金・グローバルパートナーシップ総局
EAP	東アジア・大洋州地域
ECA	ヨーロッパ・中央アジア地域
FMBA	アフガニスタン第一マイクロファイナンス銀行
FY	会計年度
GDP	国内総生産
GNP	国民総生産
GOSL	スリランカ政府
HIV	ヒト免疫不全ウイルス
IDP	国内難民
IEC	情報・教育・通信
IFC	国際金融公社
IGA	所得創出活動
IMR	乳児死亡率
JSDF	日本社会開発基金
JVNC	日本ベトナム北部山岳部コンソーシアム
LAC	ラテンアメリカ・カリブ海地域
MDGs	ミレニアム開発目標
MNA	中東・北アフリカ地域
MIS	経営情報システム
MOE	教育省
MOF	財務省
MOH	厚生省
MOU	覚書
MSD	社会開発省
NFE	非公式教育
NGO	非政府組織
NMPRP	北部山岳部貧困削減プロジェクト

PEKKA	Proram Penguatan Perempuan Kepala Keluarga (母子家庭支援プログラム－インドネシア)
PEM	参加型教育方法論
PRSP	貧困削減戦略文書
PIU	プロジェクト実施ユニット
SAR	南アジア地域
SARS	重症急性呼吸器症候群
TFO	信託基金業務
TM	タスクマネジャー
TTL	タスクチーム・リーダー
VDP	村落開発プラン
VSHLI	村落自助学習イニシアティブ
YDC	青少年育成センター

JSDF の概要

第1章

日本社会開発基金（JSDF）は、最も貧しく最も弱い立場に置かれた人々に直接援助を提供するため、2000年6月日本政府により設立されました。

背景

日本社会開発基金は、世銀グループの融資適格国において最も貧しく、最も弱い立場に置かれた人々に直接援助を提供するメカニズムとして、2000年6月日本政府により創設されました。3年目を迎えたJSDFは、社会の進歩から取り残された人々を支援するための革新的活動に資金を提供する一方、通常はもっと構造的な問題を対象とした世銀の大規模な活動を補完しています。JSDFの目的の1つは、非政府組織（NGO）、地域団体、シビル・ソサエティ組織が共同でグラント資金によるプロジェクトを設計、実施、管理できるようにすることで、政府とこれら組織のパートナーシップを構築することにあります。JSDFのもう一つの目標は、地方レベルでキャパシティ・ビルディングを進め、コミュニティを貧困削減活動に参加させることです。



Michael Foley（世界銀行）

囲み 1

JSDF の目的

- 社会で最も貧しく、最も弱い立場に置かれた人々のニーズに直接対応する革新的なプログラムを支援する。
- 最も貧しく、最も弱い立場に置かれた人々に測定可能で持続可能な利益を速やかに提供する。
- シビル・ソサエティ、コミュニティ、NGO のキャパシティ・ビルディング、参加、およびエンパワーメントを促進する。

JSDF の主な目的は囲み 1 にあるとおりです。

JSDF は、日本政府からの 100 億円（約 9500 万ドル）拠出を受けて業務を開始しました。こうした巨額の援助があったことで、世銀の融資やクレジットを得られないような革新的なプロジェクトを支援することが可能になりました。これまでに日本政府が承認したグラント額は 7540 万ドル強に上ります。

ハイレベルの運営委員会が JSDF グラント・プロポーザルを審査し、日本政府の承認を求めてグラントを推薦します。プロポーザルの受付は各年度 3 回実施されます。プロポーザルは、世銀のタスクチーム・リーダーによって運営委員会に提出され、明確に定義された評価基準をもとに審査されます。選考基準（囲み 2 参照）は、JSDF の中心的意図を要約しています。すなわち、革新的活動を支援し、迅速に便益を提供し、最も弱い立場に置かれた人々を対象とし、キャパシティ・ビルディングを進めることです。

プロジェクト向けグラントおよびキャパシティ・ビルディング向けグラント

JSDF グラントには、貧困層に直接援助を提供するプロジェクト向けグラントと、コミュニティや NGO および現地組織の訓練あるいは能力強化を

囲み 2

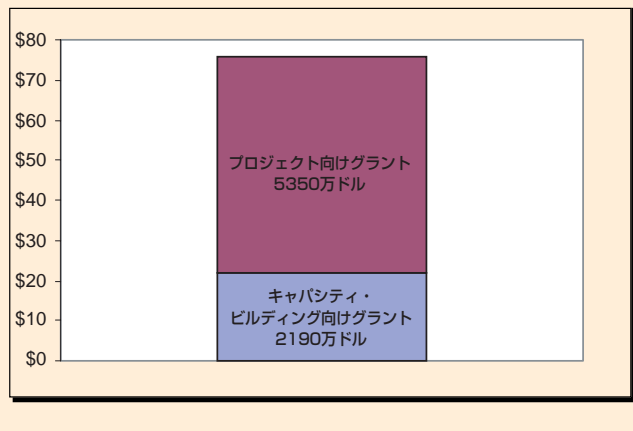
JSDF グラントの選考基準

- 最も貧しく、最も弱い立場に置かれた人々に測定可能な利益を直接かつ速やかに提供するものであること。
- 世銀の融資対象とならない活動に対して、直接援助を提供する革新的な仕組みが採用されていること。
- 長期的で持続可能な開発を促進するために、地域団体や NGO（日本の NGO を含む）の直接援助を促すものであること。
- 世銀の国別援助戦略を支え強化するものであること。
- 世銀が資金提供を行うプロジェクト（準備中または実施中の）を補完するものであること。
- グラントの受領機関が主体性を持って積極的に参加していることが実証されるものであること。
- 具体的な成果／影響の指標と、成果を測定し、進捗をモニタリングする仕組みがあること。

支援するキャパシティ・ビルディング向けグラントがあります。

プロジェクト向けグラントの対象となるのは、「世界開発報告 2003」で発表された 2002 年の一人当たり国民総生産（GNP）が 1435 ドル以下の世銀加盟国で、貧困層に直接援助を提供するものです。キャパシティ・ビルディング向けグラントは、「世界開発報告 2003」の定義による低所得国および低中所得国が対象で、訓練あるいは社会基金タイプの機関の対象範囲を広げることを通じてコミュニティや NGO を強化することが目的です。2001～2003 年度のプロジェクト向けグラントとキャパシティ・ビルディング向けグラントの配分額は、図 1 のとおりです。

図 1：2001～2003 年度に承認されたプロジェクト向けグラントとキャパシティ・ビルディング向けグラント



ここ何年かの間、キャパシティ・ビルディング向けグラントは、グラント総額の中での比重を着実に高めてきました。2001 年度は、プロジェクト向けグラントが承認済み総額の 80% を占めたのに対し、キャパシティ・ビルディング向けグラントは 20% にすぎませんでした。2002 年度にはキャパシティ・ビルディング向けグラントの比率は 39% に上昇し、2003 年度末には全体の 44% を占めるまでになりました。それに対して、プロジェクト向けグラントは 56% にとどまりました。この傾向を図示したのが図 2 です。

「JSDF は、従来の世銀融資の枠を越えて貧困層の中でも最も貧しい人々にコミュニティ・レベルで支援の手をさしのべています。JSDF は、トレーニングや自立手段を提供することにより貧しい人々が自らのキャパシティ・ビルディングに実際にに関わり、自ら問題を解決するのを促すという意味で、最適の仕組みです」

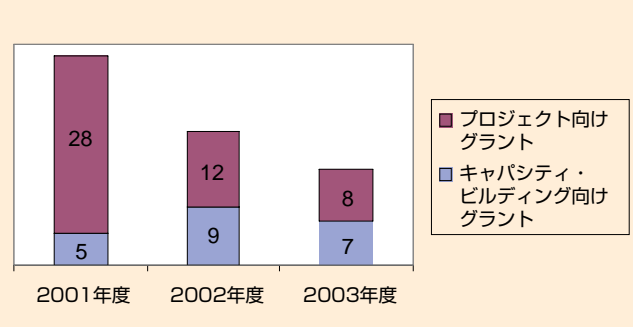
—世銀タスクチーム・リーダー

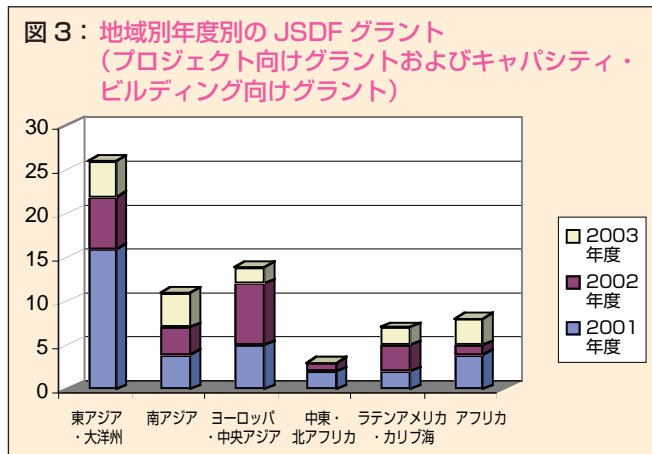
1990 年代後半に東アジアを襲った金融経済危機がもたらした社会への悪影響を緩和するという当初の意図を反映して、承認されたグラントは東アジア地域の国々に対するものが大半を占めました。しかし、2003 年度末現在では、JSDF は途上世界のさまざまな地域における貧困削減活動を支援しています。

2001～2003 年度の活動

2001-2003 年度の期間に、プロジェクト向け、キャパシティ・ビルディング向けおよびシード資金グラントを合わせて 89 件、総額 7620 万ドル強が承認されました。これらのグラントは、多様な社会開発活動を対象に、44 の低所得国／低中所得国のプロジェクトに便益を提供しています。

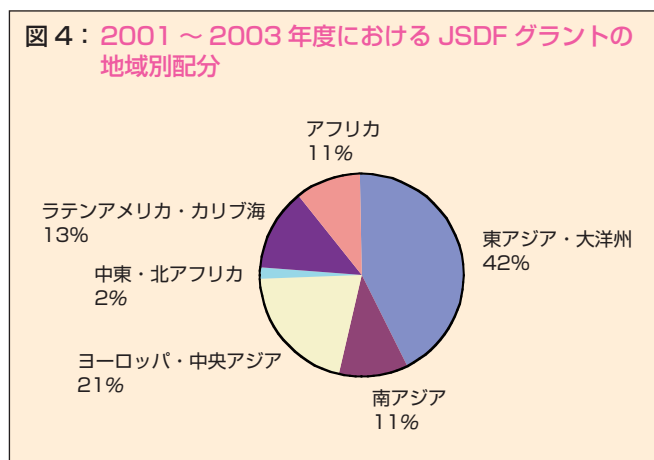
図 2：種類別年度別の JSDF グラント





JSDFの強みは、コミュニティのニーズに柔軟かつ迅速に対応し、現地レベルで活動するとの目標に沿いながら、支援するセクターが極めて多様であるという点にあります。大半の資金は社会的保護と社会開発に関連したグラントに向けられてきましたが、JSDFは保健、教育、人的開発、農業、インフラストラクチャー、法制度改革および民間セクター改革のプロジェクトも支援しています。今日までのJSDFプログラムの状況は以下のように要約することができます。

- 日本政府は、合計11ラウンドにわたりプロジェクト向けグラントとキャパシティ・ビルディング向けグラントを合わせて69件、総額7540万ドル強を承認しました。
- JSDFグラントはこれまで世銀の定義による6地域すべてでプロジェクト支援のために承認されてきました。東アジア・大洋州 (EAP) 地域は、承認額の推定42%に相当する3220万ドル、計26件のグラントを供与されました。ヨーロッパ・中央アジア (ECA) 地域は、14件、全体の21%に相当する1550万ドルのグラントを供与されました。ラテンアメリカ・カリブ海 (LAC) 地域は、全体の13%に相当する970万ドル、7件のグラントを供与されました。南アジア (SAR) 地域およびアフリカ (AFR) 地域は、それぞれ総額の11%に相当する840万ドル (11件)、810万ドル (8件) のグラントが供与されました。中東・北アフリカ地域は、全体の2%に相当する160万ドル (3件) を供与されました。
- JSDFグラントは、農業、教育、保健、社会福祉、法律、都市と農村の貧困、輸送および安全な水の分野でプロジェクトを支援しました。特に多額の支援を受けたセクターは、農村開発 (19%)、社会的保護および社会開発 (20%)、そして教育 (14%) でした。
- 2002年度に設立されたアフガニスタン特別支援は、アフガニスタンの



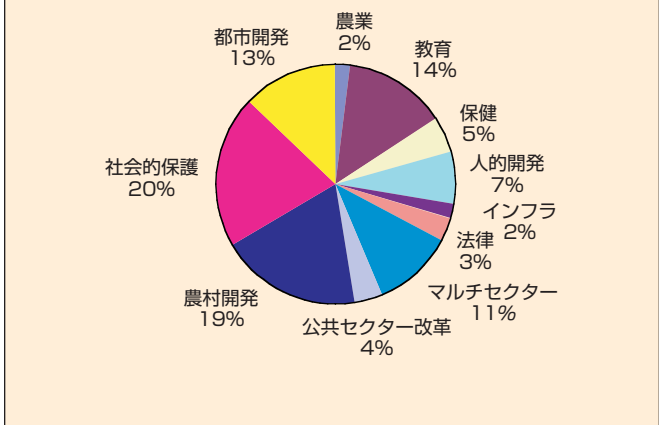
復興および政治・経済・社会の安定への移行を支援するものです。これまでに計5件、総額770万ドルのグラントが承認されました。¹

- 参加型で進められる JSDF グラント準備で生じる世銀タスクチームの費用を支援するために創設された JSDF シード基金は、合計 20 件、総額 74 万 3720 ドルのグラント資金を拠出しました。

初期のグラントの結果を見ると、プログラムの革新的な特徴が直接便益をもたらしていることが分ります。いくつかのグラントは、当

初期待された以上の成果を挙げました。一例を挙げると、当初実験的に3つの村で始まり、後に15の村に拡大されたスリランカの村落自助学習イニシアティブがあります。この活動は、世銀の資金供与を受けたプロジェクトの下でさらに拡充されており、4500の村の300万人を対象を広げる予定です。コミュニティを直接支援することにより、同グラントは飛躍的に規模を拡大し、当初の予想はるかに上回る人々に便益をもたらしています。支援を最も必要としている人々に直接働きかけることで、これらの人々が自分や周りの人々の生活を改善することが可能となります。

図5：2001～2003年度におけるJSDFグラントのセクター別配分



「JSDFでは、世銀融資と連携して革新的なアプローチを試すことができます。これらの試みは大体において成功し、全体として開発努力に増強効果をもたらします」

— 世銀タスクチーム・リーダー



Michael Foley (世界銀行)

¹ アフガニスタン特別支援とシード基金については、第2章で詳述。

2003年度の活動概要



第2章

2003年度は、タスクチーム・リーダーがシード基金の有用性に気づき、その利用が著しく増えました。

3年目の JSDF 活動

3年目を迎えた JSDF は引き続き、貧困削減やコミュニティのキャパシティ・ビルディングにより自立を促すプログラムに多額の資金を提供しました。2003年度にはプロジェクト向けとキャパシティ・ビルディング向けに合わせて15件、金額にして約1650万ドルのグラントが承認されました。² さらに、アフガニスタン特別支援から2件のグラントが承認され、JSDFの資金供与によるアフガニスタン向けプロジェクトはこれまでに合計5件、総額770万ドルとなりました。シード基金グラントの件数はプログラムの初年度である2002年の2件から今年度は18件に増えました。³ JSDF が支援した活動としては、農村部コミュニティの支援、教育分野での支援、女性と少女のエンパワメント、社会サービス向上を目指すコミュニティ主導の開発活動をはじめとするさまざまな活動があります。



Michael Foley (世界銀行)

² 2003年度に承認されたJSDFグラントは国別・プロジェクト別に付表1に掲載されています。

³ 2003年度に承認されたシード基金グラントは付表2に掲載されています。

地域別配分

東アジア・大洋州地域は 2003 年度における JSDF 資金の地域別配分でトップを占め、総配分額の約 37% を得ました。以下、アフリカ (19%)、南アジア (17%)、ヨーロッパ・中央アジア (14%)、ラテンアメリカ・カリブ海 (13%) と続きました。

国別に見ると、エチオピアが最大のグラント受領国で、**牧畜社会支援プロジェクト**に 196 万ドルが供与されました。このプロジェクトの目的は、エチオピア低地の貧しく弱い立場にある牧畜社会を対象とした需要主導の直接投資を促すためにキャパシティ・ビルディング活動を支援することにあります。具体的には、コミュニティに対し、所得の著しい増加や公共サービスへのアクセス、干ばつ対策の強化に役立つと予想され、かつ資金供与の対象となりそうな地域開発プランや小規模プロジェクトのプロポーザルを作成する際に援助を提供するものです。

エチオピアに次いで多くのグラントを受け取ったのはベトナムで、最も貧しいコミュニティの幼児たちにその潜在能力を十分発揮させる機会を与えることを目指している**幼児期能力開発プロジェクト**に 191 万ドルのグラントが供与されました。このプロジェクトは、幼児の能力開発支援の分野における親や保育者、地域の人々、政府担当者の知識と技能の強化に加え、環境・保健・教育サービスの改善を目的とする革新的な戦略を採り入れた統一的で総合的かつ低コストのモデルを創り出すものです。

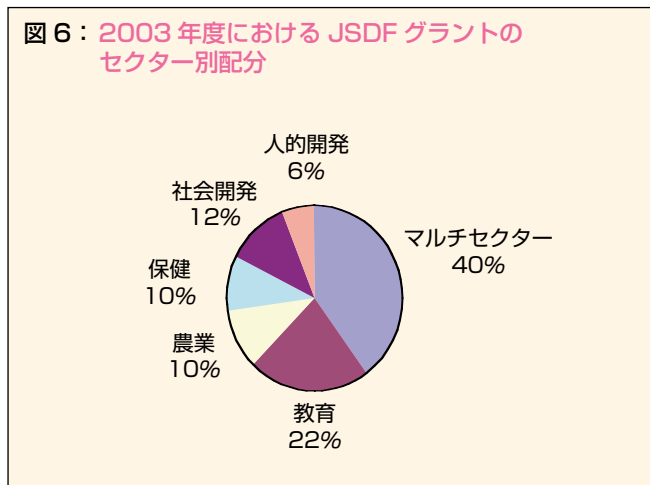
2003 年度にグラント配分額が 3 番目に多かったのはスリランカで、2 件のグラントの合計で 190 万ドルが供与されました。そのうちの 1 件「**最も貧しい女性と少女のエンパワーメント・プロジェクト**」は、最も弱い立場に置かれた女性たち、つまり貧しくて職もない人々の知識や能力を強化して所得を得るために小規模事業を設立するのを支援することを目指しています。このプロジェクトの主な特徴は、1) コミュニティ・レベルだけでなく「州を越えた」レベルでも女性のキャパシティ・ビルディングを目的とした自助およびボトムアップ型の活動を奨励する、2) コミュニティの特定の活動やアウトリーチ・プログラムへの参加を通じてもっと多くの貧しい女性たちが能力を身につけ、経済・社会問題や財務面の問題に取り組めるようにする、3) 広範な協力を通じて「女性が運営する」社会および地域ベースの組織や小さな村レベルの持続可能な銀行取引を奨励する、の 3 点です。もう一つのプロジェクト「**コミュニティ情報・学習センターを通じた農村部貧困層のエンパワーメント・プロジェクト**」は、最も貧しい地方のコミュニティ情報センターに関する情報の利用と普及のために参加型の方法を実施に移すべく、コミュニティのリーダーを対象としたキャパシティ・ビルディング・プログラムを支援するものです。コミュニティのトレーナーは、対象となるコミュニティに利用可能な機会や資金についての情報を提供し、受益者が優先事項を決めて事業計画を立案するのを支援します。このプロジェクトでは、スリランカ村落自助学習イニシアティブ(第 3 章参照) など成功したほかのプロジェクトから得た教訓を取り込んでいきます。

表 1：2003 年度に承認された JSDF グラントの地域別配分

地域	第 9 ラウンド		第 10 ラウンド		第 11 ラウンド		2003 年度合計	
	グラント 件数	金額 (単位：ドル)	グラント 件数	金額 (単位：ドル)	グラント 件数	金額 (単位：ドル)	グラント 件数	金額 (単位：ドル)
アフリカ	3	3,189,630	0	0	0	0	3	3,189,630
東アジア・大洋州	2	2,407,740	1	1,827,474	1	1,910,800	4	6,146,014
ヨーロッパ・中央アジア	1	1,015,500	1	1,192,300	0	0	2	2,207,800
ラテンアメリカ・カリブ海	0	0	0	0	2	2,099,000	2	2,099,000
中東・北アフリカ	0	0	0	0	0	0	0	0
南アジア	3	1,857,070	0	0	1	956,560	4	2,813,630
合計	9	8,469,940	2	3,019,774	4	4,966,360	15	16,456,074

エチオピア、グアテマラおよびサントメ・プリンシペの 3 カ国は 2003 年度に初めて JSDF グラントを供与されました。エチオピアの牧畜地域支援グラントは、環境面や文化の面で大きな困難に直面していながら外部からの支援をほとんど得ていない遊牧民たちの生活様式維持を支援しています。グアテマラにとって初の JSDF グラントは、ホンジュラスとニカラグアを含む地域グラントの一部ですが、コーヒー専門業者との提携により小規模農場主の市場価値を高めることを目指しています。サントメ・プリンシペへの JSDF グラントは、社会的サービスの改善を目指すコミュニティ主導型開発への市民参加を促し支援の強化を図ろうというものです。表 1 は、2003 年度に承認された JSDF グラントの地域別配分を示しています。

図 6：2003 年度における JSDF グラントのセクター別配分



セクター別配分

2003 年度は、開発問題の相互依存性を反映して、マルチセクター・グラントが最大部分を占めました。5 件のマルチセクター・グラントに合計 660 万ドル（2003 年度配分額の 40%）が配分され、中でも、社会から取り残された女性や少女たちのエンパワーメント、貧困の分析・対策立案・プロジェクト開発に関わる地域レベルのキャパシティ・ビルディング、暮らしの向上、基本的サービス提供の質向上などが目立っています。セクター

別内訳を詳しく分析すると、3 件のグラントに配分総額の 22% に相当する 360 万ドル強が供与されたことから、教育が重視されていることが分ります。同じように重視されたのは保健および社会的サービスで、3 件のグラントに 360 万ドルが配分されました。承認されたその他の JSDF グラントは、農業（3 件のグラント、170 万ドル）および人的開発（1 件のグラント、90 万ドル）のプロジェクトが対象でした。

JSDF シード基金

2002年3月、日本政府は、JSDF プロジェクトの準備に多くの人々が参加しやすくなるようにとシード基金を創設しました。この準備過程には通常、現地のシビル・ソサエティ組織や NGO および受益者が参加し、プロジェクトの効果や持続可能性を最大限に高めるために協議を行います。タスクチーム・リーダーは、JSDF プロポーザルの作成準備費として最高5万ドルのシード・グラントを申請することができます。対象となる費用としては、コンサルタント業務に関わる費用が含まれ、これには地域協議プログラムの専門家や現地コンサルタントの費用、グラント・プロポーザルの準備に直接関連のある世銀職員出張費／生活費などがあります。シード・グラントの受領者は、シード・グラントの承認日から12カ月以内に、質の高いJSDF グラント・プロポーザルを提出することになっています。

2003年度は、18件のシード・グラントが承認されましたが、金額は2万5565ドル（ウズベキスタンのコミュニティ・ベースの給水管理プロジェクト）から5万ドル（ガーナとマリの農村／世界市場連携プロジェクト）まで多岐にわたっています。7件のシード・グラントがアフリカ地域の国々に、5件が東アジア・大洋州に、4件はヨーロッパ・中央アジアに、南アジアと中東・北アフリカにはそれぞれ1件が承認されました。図7は、2003年度に承認されたシード基金グラントの地域別配分を示しています。

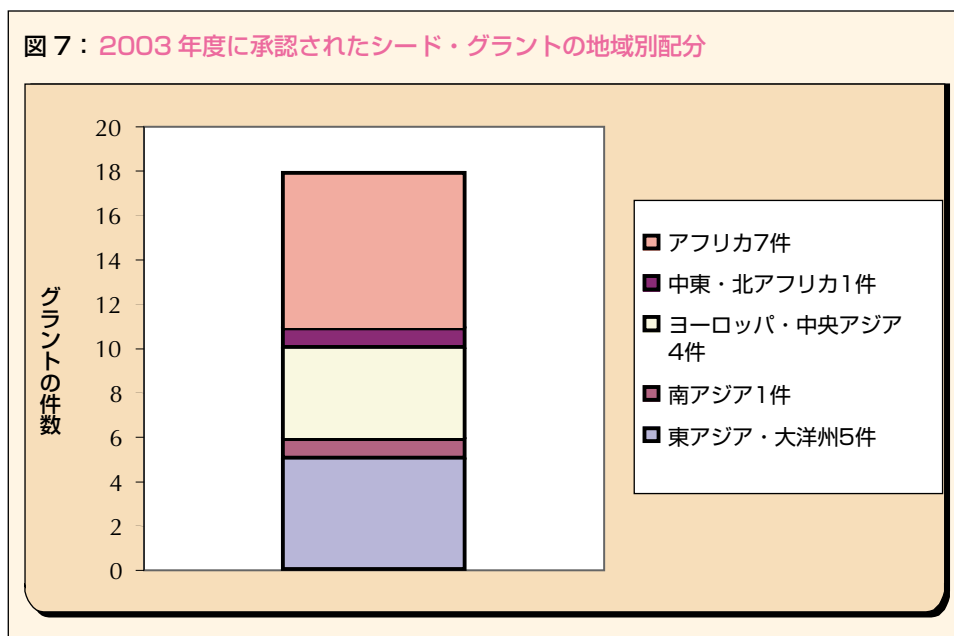
アフガニスタン特別支援

2002年度に、日本政府は「アフガニスタン特別支援」プログラムを創設しました。世銀のデータは、戦争で荒廃した人口2800万人のこの国の深刻な状態を示しています。2002年の乳児死亡率（IMR）は出生児1000人につき162人で、南アジアの平均値の2倍を超えています。清潔な水を利用できるのは住民の13%にすぎず、5歳未満の子供のほぼ半数が栄養失調

「JSDFは、資金が貧困層の中でもとりわけ貧しい人々に、ほかの経路を通してではなく、直接に届くように意図されているという点が、ほかの信託資金と異なります。より柔軟なツールを使った方が草の根レベルに手を差し伸べやすくなります」

—世銀職員

図7：2003年度に承認されたシード・グラントの地域別配分





Michael Foley (世界銀行)

に苦しんでいます。学齢期に達しても、少年は3分の1未満、少女は5%未満しか就学していません。妊婦死亡率は、出産10万件につき推定1900人と、世界でも最多の部類に属します。

日本政府は、アフガニスタンの復興と政治、経済、および社会的安定への移行を財政支援するために3年間のアフガニスタン支援プログラムに1830万ドルを拠出しました。JSDF グラント同様、アフガニスタン支援プログラムもプロジェクト向けグラントとキャパシティ・ビルディング向けグラントの双方に資金を供与しています。同プログラムが創設されてからの2年間に計5件のグラントが承認されましたが、その金額は50万ドルから300万ドル弱までさまざま、総額では約770万ドルに上ります。2003年度は2件のグラントが承認されました。1件は、「**将来の小企業家育成**」(298万ドルのプロジェクト向けグラント)で、これは若者の経済的ニーズに応えようというものです。もう1件は、「**アフガニスタン第一小口融資銀行**」(65万ドルのキャパシティ・ビルディング向けグラント)で、金融支援を得られない貧困層に金融サービスを提供することを目指しています。これらのグラントについては囲み3で述べられています。

2003 年度のアフガニスタン向け JSDF グラント

プロジェクト向けグラント：「将来の小企業家育成—若者を対象に」 (297 万 9690 ドル)

このグラントは、アフガニスタンの若者たちが一生の仕事を見つけられるように準備し、持続的に所得を得られるようにすることで、彼らの社会・経済的地位を向上させることを目指すものです。対象となるのは、長年にわたる戦争で正常な生活を送ることができず、社会の活動的で有能な一員となる機会を逃したため、弱い立場に置かれた若者たちです。このプログラムは、青少年（12-28 歳）に自己啓発を促そうというものです。アフガニスタンでは、ドナー国からの援助は主に緊急救援プログラムに向けられているので、このようなプログラムの経験はほとんどないのが実情です。

このグラントは、青少年向けプログラムにおける現地 NGO の専門知識を伸ばそうという先駆的なものです。第 1 段階では、NGO が関心ある若者に必要な指導と支援を与え、彼らの能力を伸ばし潜在能力を探求するのを助けるために専門・一般両面での基礎的トレーニングを行います。第 2 段階では、若者がそれぞれ関心のある分野の団体や機関、あるいはアフガニスタンで進行中の開発・復興プロジェクトに配置されます。第 3 段階では、関心を示した若者が企業を立ち上げる潜在能力があるかどうかを確かめるために審査を実施します。審査の一環として、若者には簡単な事業計画の提出が求められます。審査を通った若者には、初期投資に充てるシード資本をプログラムから提供して企業の立ち上げを支援します。プロジェクトの実施を促し、JSDF 資金によるイニシアティブの範囲を超えてプログラムを持続できるように、オリエンテーションやガイダンス、懇親会、情報交換、技能トレーニングを目的とした青少年育成センターがいくつか設立される予定です。

キャパシティ・ビルディング向けグラント：アフガニスタン第一小口融資銀行 (65 万 100 ドル)

このグラントは、アフガニスタンの法律に基づく最初の総合金融機関であるアフガニスタン第一小口融資銀行（FMBA）のキャパシティ・ビルディングを図ることを目的とした、幅広い寄付に支えられたプログラムに資金供与するもので、経済開発のためのアガ・ハーン基金および国際金融公社（世銀グループの民間セクター担当機関）の支援により設立されました。FMBA は受益者とその家族の暮らしを向上させるため、今後 3 年間に 1 万件を越える零細・小規模企業向け融資を行う予定です。

このグラントは、経営情報／小規模銀行制度の発展を促すために資金供与するものであり、その過程で FMBA 職員を対象にトレーニングを行います。これにより職員は、零細企業家向けの融資業務を効率的に管理・提供することができるようになり、ひいては、紛争後間もないアフガニスタン経済では数少ない所得創出活動を支援することができます。グラントはまた、コーポレートガバナンスやマネーローダリング防止、ジェンダーの平等について国際的な模範事例の導入も目指します。

主な JSDF グラント

第3章

「村の誰もが恩恵を受けなければ
なりません。目指すはコミュニ
ティの発展です」
— 世銀職員

JSDF グラントは受領者によって実施されます。受領者は中央あるいは地方政府であるかもしれないし、NGO あるいは地域団体の場合もあります。各グラントは、ニーズにしたがって直接の受益者が参加して準備されたため、それぞれに独自性があります。以下の事例は、JSDF グラントが立ち向かい解決しようとしている課題と悪条件のいくつかを明らかにしています。本章には現場からの報告もあり、JSDF グラントの対象が多様な地域およびセクターにわたることを反映しています。

- ・ ベトナム：北部山岳部貧困削減プロジェクト
- ・ インドネシア：未亡人と貧困対策プロジェクト
- ・ スリランカ：村落自助学習イニシアティブ
- ・ ヨルダン：危機的状況にある子供たちの社会の主流への統合
- ・ 中央アフリカ共和国：コミュニティ・レベルでの HIV / エイズ戦略強化
- ・ ブルガリア：児童育成・貧困地域支援プロジェクト

各国の取り組み概要は、JSDF グラントの実績とその実施による現地レベルでの成果を具体的に示しています。

ベトナム：北部山岳部貧困削減プロジェクト

グラント額：139 万 5000 ドル

グラントの受領機関／実施機関：ベトナム政府、計画投資省

グラントの目的：機会を創出し、平等を保証し、脆弱性を削減することにより農村開発を加速すると共に、飢えと基本的貧困を根絶する。

1990 年代の金融危機は、ベトナム経済に重大な打撃を与えました。深刻な貧困とその社会的帰結は、国民の大半に悪影響を及ぼし、少数民族と女性は特に不利な立場に追いやられました。最近の経済成長によって、都市と農村の所得格差は広がり、農村部での所得の不均衡は増大しています。特に辺境地域の貧しい人々は



Tran Thi Hoa (世界銀行)

取り残されています。平等な成長をめざすベトナム政府は、国内の最貧地区である辺境地域や困難の多い山地での貧困削減を図る特別プログラムを提唱してきました。このグラントは、加速的な農村開発と辺境地域の貧困削減という目的を支援しようというものです。

プロジェクトは対象となる6つ省でそれぞれ2つ、計12のコミュニティで試験的に開始されました。どの省でも、試行対象となった2つのコミュニティのうち1つは、いい季節にしか道路が通れず、省内で有数の貧困地域でした。もう1つの地域は道路が開通しておらず、住民は少数民族で構成されており、その大多数がほとんど教育を受けておらず、不健康な状態に置かれていました。このパイロット・プログラムでは、関係者が参加してプロポーザルを作成しました。

JSDF グラントの成果と影響

グラントは以下のコンポーネントから構成されていました：地域開発の方法、計画と管理、食糧の安全確保と現金収入の創出、家庭への給水、小規模灌漑、教育と保健、コミュニティ・グラント・プログラム、参加型のモニタリングと評価。これらの活動は、地域のキャパシティ・ビルディングや地域共同体の生活水準全体の改善と共に、最も不利な立場に置かれた人々の大半を参加させるための手段でした。JSDFはプロジェクトの目的を実現するためにプロジェクト・スタッフや現地当局者、小学校教師、村や地域共同体の保健・医療従事者をトレーニングする活動に加え、対象となる受益者のためのガイドラインを作成し、自治体が地域開発プランを仕上げるのを支援し、プロジェクトの活動の設計、選択、実施における受益者の参加を評価する方法と判断基準を作成する活動に資金を供与しました。

JSDF グラントの強み

プロジェクトの設計は、必要に応じて調整できるように実施期間中は柔軟な対応が続けられ、活動は最も効果を挙げる形で進められました。参加プロセスは、資金調達のために地域共同体のプロポーザルを作成する上で、またプロジェクトの利害関係者の関与を強化し、受益者と弱い立場に置かれた人々を立案過程に関わらせる上で、重要な役割を果たしました。NGO が実施した参加型のモニタリング・コンポーネントでは、追跡調査プロジェクト実施の初年度に試験段階でのモニタリングから学んだ教訓を応用しました。実施は、地域医療に関連した問題についての経験を伝える現地の NGO、日本ベトナム北部山岳部コンソーシアム (JVNC) によってさらに強化されました。

インドネシア：未亡人と貧困対策プロジェクト

グラント額：219万7040ドル

グラントの受領機関／実施機関：内務省

グラントの目的：未亡人の経済・社会的地位の向上を支援し、多くの家族を貧困に陥れた大規模で破壊的な内戦の影響に対応する。

母子家庭のための JSDF プログラムが 1999 年に開始されるまで、インドネシアには未亡人のための、ましてや大規模な紛争地域の未亡人を対象とした開発プロジェクトは存在しませんでした。しかし、未亡人と貧困とのつながりは広く知られていました。もともと貧しい家族が成人男性がいなくなったことにより経済的に悲惨な状態に陥っていました。家族がたちまち貧困に陥っただけではなく、将来の世代まで貧困を背負うことになりました。同様に悲劇的だったのは、教育の機会が失われたことです。子供たちは、授業料が払えなかったり、家族の生き残りのために子供たちを働かせる必要に迫られたりした母親によって退学させられたのです。

紛争地域には母子家庭の数がきわめて多く、総人口の 15% も占めていました。彼女たちのすべてが自然な成り行きで未亡人になったわけではありません。東アジア金融危機後の経済崩壊とインドネシアの政治的な変遷をめぐる混乱によって、仕事を求めて大量の人々が移住しただけでなく、100 万人もの人々が安全な場所へ逃れようとして国内難民になったのです。

1999 年に、内務省と世銀の社会開発チームは、母子家庭を効果的に支援できるプログラムの基本原則を作成するために非公式のブレインストーミング・セッションを行いました。第一に、プロジェクトは経験豊富で未亡人と協力して活動するツールを持っている NGO によって実施されなければなりません。第二に、プロジェクトは未亡人の孤立を克服することを重視し、自主的グループを組織するのを支援することとします。第三に、予め決定された実施プランに従ってではなく、未亡人自身がプロジェクトの進行ペースを決めなければならないので、資金供与側は辛抱強くなければなりません。最後に、学び取った教訓を共有し活かすことができるように、



Michael Foley (世界銀行)

プロジェクトをきちんと文書化する必要があります。

チームは、一定の留保付きで新しい JSDF プログラムを模索しました。ひどく貧しい人々への潜在的インパクトは大きいにしても、ほとんど未開拓の領域で今後2年にわたる計画を立てるのはリスクの大きいプロジェクトでした。当時、プロジェクトは従来の世銀の融資を得ることはできませんでした。政府は NGO を通じた開発融資に難色を示しました。未亡人の間での信頼醸成には相当長い期間が必要なので、標準的なプロジェクトの日程とは合いませんでした。このプロジェクトには、学校へ子供たちを通わせ続けることができるように、グラントの一部を母親たちが現地の食料品購入に充てるのを認めるといった世銀でも難しいいくつかの措置も必要でした。しかし、すべての関係者の善意により、グラント契約が調印されました。

JSDF グラントの成果と影響

このプログラムは最初から潜在的障壁に打ち勝つことに成功しました。内務省は、プログラムを共同管理し、権利の視点がプロジェクトの開発目標と同等の扱いを受けるようにするために、インドネシア最大級の人権組織である女性に対する暴力に関する全国委員会と覚書 (MOU) を交わしました。この合意により、プロジェクトは、新たに立ち上げられた母子家庭支援プログラム (現地語で Penguatan Perempuan Kepala Keluarga : 一般に PEKKA プロジェクトとして知られている) を実施するために国内最良の女性 NGO のうちの1つの協力を取り付けることができました。

第1回のJSDF グラントを受けて、PEKKA は、それぞれ性質の異なる紛争を抱えている4つの州で活動しました。未亡人たちはプログラムに対し自分たちの代表を選任し、それぞれの代表はコミュニティの組織化と小口信用管理に関して1カ月に及ぶ集中トレーニングを受けました。プロジェクト・チームはまた、プロジェクトの信頼醸成用ツールとして未亡人たちにカメラの使い方を教え、写真を採り入れた文書作りと文化的表現のためのプログラムも開発しました。

実施中にはいくつかの難問も持ち上がりました。一部の地域では、多くのメンバーがコミュニティの圧力を受けてグループから離脱しました。中には、売春だとか魔法を使っているとほかの村人から非難されたメンバーもいました。また、紛争が再燃してPEKKA の活動が遅れる地域もありました。

しかし、大半の地域で、PEKKA ははっきりとした成功を収めました。基本調査と追跡調査は、貧困の悪循環が断たれたことを示しています。プロジェクトがスタートして以来、PEKKA メンバーの子供は一人も退学しておらず、大半のグループで子供の就学率は上昇しました。PEKKA の小口信用グループはJSDF 資金が供与される前にメンバーの貯蓄を動員していたので、メンバーは、グラントを受ける前から家内経営を行っていました。平均して家計支出は増加し、PEKKA の家族はプログラムに参加する前より食生活が改善されているようです。

政府もPEKKA に非常に満足し、さらに紛争を抱えている3つの州へと活動を拡大しました。PEKKA のトレーニング方法は今、世銀が支援して



Michael Foley (世界銀行)

いるはるかに大きな地域開発プロジェクトへとフィードバックされ、プロジェクト管理チームが未亡人のまとめ役をトレーニング・アドバイザーとして参加するよう要請するまでになっています。

JSDF グラントの強み

PEKKA の最も重要な利益は目に見えにくいものかもしれません。それは、未亡人がふと気がつくとき自らに自信と誇りを持てるようになっていたことであり、そのことは時に思いがけない形で現われることがあります。たとえば、いくつかの未亡人グループは、自分たちは今は村の予算集会で自らの権利を擁護することができるから、お金はどこかほかの地域の未亡人を助けるために使うべきだと主張して、小口融資の受け取りを拒否しました。

2003 年に、PEKKA は一連の写真展を企画し、PEKKA 対象の州で巡回写真展を開催しました。写真展はさまざまな形でプロジェクトを反映しており、いずれの写真にも共通する同じテーマがありました。それは未亡人の働いている姿でした。田植えをする女性の写真もあれば、橋を修理する女性たちの写真もあり、祭りのために食事を準備している女性たちの写真もありました。何故このテーマを選んだのかと尋ねられると、未亡人たちは躊躇なく答えました。「私たちは、人がどう思うと、自分たちも村の発展を助けていることを示したかったのです」

スリランカ：村落自助学習イニシアティブ

グラント額：75 万ドル

グラントの受領機関／実施機関：スリランカ・マハウェリ当局

グラントの目的：意志決定と資金を 3 つの村の貧しいコミュニティの手に直接委ねる参加型開発モデルをテストする。この目的は、村のモニタリング・システムを確立し、コミュニティおよび社会的基盤インフラのサブプロジェクトと所得創出活動に資金供与することによって達成される。

村落自助学習イニシアティブ (VSHLI) は、貧困削減につながる持続可能な開発プロセスを確立することを意図したコミュニティ主導型開発 (CDD) アプローチを採用しています。CDD は、コミュニティをエンパワーメントすることにより、自分たちで優先課題を決められるようにすることを目指す開発アプローチです。CDD の枠組みは、参加、資金のコミュニティによる管理と健全なガバナンス、設定目標を達成するための現地レベルでのキャパシティ・ビルディング、および意志決定に関与した人々の説明責任を目指すものです。

貧困を削減する革新的な解決策が必要との認識に立って、JSDF グラントの資金により、スリランカ北中部地区の 3 つの村で VSHLI のパイロット・プログラムが実施されました。このプログラムにより、コミュニティが自らのニーズと優先事項を明確にし、インフラおよび所得創出プログラムを主体的に作成・実施・管理し、自己資金からかなりの割合 (30 ~ 50%) をプログラム費用に拠出できることがみごとに実証されました。

「ガラスのコップに入っている水は見えるが、ティーポットに入っているお茶は見えない。透明性を高めることが重要だ」

ー プロジェクト実施における透明性を求める VSHLI 参加者



Yosef Hadar (世界銀行)

VSHLI は、コミュニティに直接資金を供与し、資金配分やほかのサービスにおける柔軟性と融通性を実現することにより、貧しい人々、特に貧しい女性に焦点を当てました。その狙いは、特に単純明快な規則と持続可能性のある協力関係を構築することを通じて、透明性、開放性および説明責任を高めることにありました。2003年までに、地元当局者とも結果重視の協力関係を構築することができ、同じ活動が3つの村から15の村へと拡大されました。

JSDF グラントの成果と影響

JSDF パイロット・プロジェクトが有望な成果を挙げたので、スリランカ政府は国内の最も貧しい地域全体にもパイロット・プロジェクトを拡大するため世銀に援助を要請しました。これを受けて、アダプタブル・プログラム融資（APL）活動が準備されています。これは、優先事項の決定や資源配分、プログラムの実施と維持管理にコミュニティが参加する能力を強化するための長期的支援を行うことを目的としたもので、12年間に4500から5000の村落、人数にして300万人から400万人をカバーする予定です。

特に VSHLI 実施のために現地で確立された方法が JSDF グラントによる活動の成長と発展にとって不可欠でした。これらの方法はプロジェクトを効果的に実施するための手順を体系化しました。村民はプロジェクトに積極的に取り組み、主体性をもって成果を導き出しました。

JSDF グラントの強み

VSHLI プロジェクトがとてもうまく行った地域では、いくつもの要素がプロジェクトの成功に寄与しました。一番の成果は、コミュニティのエンパワーメントと主体的取り組みが実現したことです。理事会に代表として参加することを含め、ほとんどのコミュニティ活動に若者と女性たちが参加しました。女性のグループは地元の役人や政府の当局者と接触するなど、活発になりました。

コミュニティは、それぞれの村落開発プランの作成と実施から自信を得ました。コミュニティが自ら調達や財務管理、社会的モニタリング機能を果たし、紛争の有効な解決法を学びました。また、請負業者やサービス提供者、コンサルタントと直接やりとりをするスキルを身につけ、契約の諸条件についてもきちんと交渉しました。最後に、村人たちは地元当局者との良好な関係を打ち立て、現地の政府機関と交渉し、政府サービスを獲得するなどの面で経験を積み、発言権を強めました。このように、VSHLI は現地指導者のスキルを伸ばすことに成功しました。また、コミュニティやほかの村にサービスを提供する専門職補助員が育成され、専門職補助員養成学校も設立されました。その目的は特に社会の動員、コミュニティの契約・調達・会計・モニタリングおよび社会的監査、紛争解決に関するトレーニングをほかの村々に提供することでした。その意図は、この低コストで持続可能なアプローチを全国レベルに拡大することにあります。

「開発にあたっては対象を厳選しなければなりません。あまり多くのオレンジをつかもうとすると、結局どれもこぼれ落ちてしまうでしょう！」

— VSHLI に参加した村民



Michael Foley (世界銀行)

コミュニティによる取り組みは費用効果を大きく高め、他方、村人たちはプロジェクトの所得創出活動から利益を得ることができました。極端に貧しい村もプロジェクト費用の30%を拠出し、総投資費用を直接回収できた上、一般にプロジェクト費用を通常より30-50%低く抑えることができました。貯蓄と信用コンポーネントに支援された所得創出活動としては、農作物生産、ヤギの飼育、酪農業、ほうき作りなどがありました。コンピュータ・センターが設立され、これによって村の多くの若者がコンピュータを使いこなせるようになり、より積極的にプロジェクトに加わるようになりました。

ヨルダン：危機的状況にある子供たちの社会の本流への統合

グラント額：99万4860ドル

グラント受領機関／実施機関：ヨルダン・ハシェミット王国政府／中東における社会開発のためのクwestスコープ (Questscope)

囲み 4

VSHLI プロジェクトの成果

トレーニング・コースが生み出す所得創出活動

Ethumalpituya の調達委員会は、できるだけ価格が安い製品を購入することに変な熱心で、ときにはそれまで提供されていた製品の幅を広げるために革新的な手段を利用しました。

食品技術者を招いて、どうすれば台所を常に清潔できちんと整理され、効率的に動ける状態に保てるか、またどうすればエネルギーを節約できるかについて、地域の女性を対象に「台所改善プログラム」を学ぼうということになりました。女性たちは、熱した砂を利用することで、オーブンを使わずにケーキを焼く方法を学びました。これらの方法を学んだ女性のうちの何人かは食品関連の所得創出活動に乗りだし、手作りの保存食品とケーキを販売してお金を稼ぎ始めました。

経営手腕と良質の素材

村の女性たちと委員会のメンバーは、VSHLI 公民館の屋根板に工事終了直後から亀裂が入り始めたことに気づきました。苦労して稼いだ金の一部を公民館のメンテナンスのために支出した村人たちは、地域の総会で、低品質の屋根板を購入したとして小委員会に怒りをぶつけました。

建築委員会は購入先の会社に自ら屋根板を返却し、新しい屋根板を要求しました。建築委員会の委員長は、このプロジェクトを通して最高品質の製品を求めることを学んだと報告しました。委員会は一部の会社が申し出た10%の値引きを断りました。間違いなく最高品質の製品を購入したかったからです。委員長は、このプロジェクトを通じて多くの技術的な経験を得たと言います。「今では彼女も、自分の家のことで助けを必要としたり、誰かほかの人を助けたかったりすれば、見積もりを確認した上で何を要求したらいいかを承知しています」—スリランカの世銀職員。

グラントの目的：「危機的状況にある」子供たちを社会の主流へ再統合するのを支援するために NGO などコミュニティ・ベースの紹介・協力組織のキャパシティ・ビルディングを図る。それまでは、危機的状況にある子供たちは、政策立案者や NGO の活動家からほとんど注目されていなかった。JSDF の資金によるこのプログラムは、既存の NGO サービスを利用できるようにすることによって、子供たちが直面する困難な問題への対処を支援している。

JSDF グラントの成果と影響

2001 年春に、社会開発省と現地の NGO クウェストスコープは、ヨルダンの子供たちと若者が直面している困難な社会問題を専門家の支援により解決するために、世銀と融資の可能性について協議しました。今日のヨルダンの若者が置かれている全体的な状況の背景には、対立する価値観と前例がないほどの社会不安があります。ヨルダンの社会開発省の認める「危機的状況にある」子供たち（10～18 歳）の定義は、崩壊家族で育った、自分自身あるいは身近な家族が法律上のトラブルを抱えている、通学は不定期であるか退学してしまっている、低年齢で生活費を稼がざるを得ない、無防備な性行動に早い時期から加わっている、あるいは性的虐待を受けてきた、薬物乱用の犠牲者である子供たちというものです。

採用された方法論は、社会の周辺に追いやられた人々とコミュニティの役割を強化する手段として参加を重視するというものでした。その目的は、これらの人々の人権を拡大し、利用可能な資金にアクセスできるようにし、持続可能な形で公正を勝ち取ることにありました。コミュニティはこのプロジェクトに全面的に参加することが期待されました。というのも、危機的状況にある子供たちを社会の主流に引き戻すには、多くの機関やコミュニティの人々による協調的な活動が必要だからです。このプロジェクトにおいて最も本質的な要素は、社会開発省（MSD）と子供たちとの積極的な協力です。この協力の鍵となったのは、紹介機関と統合され、地域組織と強力な結びつきを持った活発なメンタリング・プログラムを確立することでした。

当初、このプログラムの恩恵を受ける子供たちは 2 年間で推定 2000 人とされていましたが、このメンタリング・アプローチは、MSD 青少年局の参加している 6 つのセンターの所長によって採用されたので、今後 1 万 2000 人の子供たちがプロジェクトから利益を得ることになるでしょう。

JSDF グラントの強み

メンター・プログラムを支援するサブ・プログラムとしての「ストリート教育」あるいは参加型教育方法論（PEM）の開発もまた、この JSDF グラントのきわめて興味深いコンポーネントです。PEM は、子供たちを学習プロセスに復帰させる、何段階もの対話を通じて前進する、知識を構築する、自覚を促し重要な考え方を育成することなどの概念に基づいています。子供の読み書き能力の育成において PEM が有効であることから、6 つの青少年センターすべてにおいて、従来型の読み書き能力トレーニング活動に代わって、「ストリート教育」が採用されることになりました。また、現在開発中の非公式教育（NFE）プログラムの重要な方法論として MOE によって承認されたことも成功に寄与しました。



Julio Etchart (世界銀行)

これは、児童を保護するための非従来型ボトムアップ・アプローチを設計するという、世銀にとって初めての試みの1つでした。JSDFはこの課題にとって理想的な仕組みでした。危機的状況にある子供たちを市民社会に組み込み、プロジェクト開発のあらゆる側面にコミュニティが参加するのを促すというJSDFの目的が、この最も弱い立場に置かれたグループを対象とした取り組みの基盤となりました。危機的状況にある子供たちの特定と社会復帰は次第にコミュニティ、家族および社会的機関が実施すべき責任として完全に受け入れられるようになると期待されています。

中央アフリカ共和国：コミュニティ・レベルでのHIV／エイズ戦略強化

グラント額：63万ドル

グラント受領機関／実施機関：アフリカ友の会 (Amis d'Afrique)

グラントの目的：(i) HIV／エイズ予防のためにコミュニティの指導者と年配者をトレーニングする、(ii) HIV／エイズが蔓延している地区で予防に関する情報・教育およびコミュニケーションのトレーニングを実施する、(iii) コミュニティが主体的に取り組む戦略を確立することにより、HIV／エイズとの戦いの地区および村レベルでの草の根のコミュニティ活動を強化する。

JSDF グラントのコンポーネントには、HIV／エイズ患者に対するトレーニングを積んだ医師と地域のヘルスワーカーによる医療行為への支援が含まれます。HIV／エイズ感染者を抱える家族は、生計の手段として小規模畜産業あるいは菜園を営む場合に小口グラントが利用できます。



Michael Foley (世界銀行)

JSDF グラントは、エイズ予防に関する情報・教育およびコミュニケーション (IEC) コンポーネントを支援しています。対象となるのは、エイズ医療従事者には総じて無視されてきた年齢層であるにもかかわらず HIV / エイズ感染率が増加傾向にある若者 (9 ~ 24 歳) です。IEC では、ロールプレーやセミナー、学校での「若者トーク」を通じて、どのようにして感染を防ぐかを教えます。また、キャパシティ・ビルディングのため、現地の NGO に自覚促進キャンペーンへの参加を奨励し、僻地やサービスが行き届いていない地域に手を差し伸べることができるよう支援しています。

JSDF グラントの成果と影響

2003 年 3 月にクーデターが起きるまでは、現地の NGO であるアフリカ友の会 (Amis d'Afrique) が、予定されていたグラント活動の大半を遂行しました。ところが、クーデターと共に企業は略奪され、病院は閉鎖され、HIV / エイズ感染者には長い間ヘルスワーカーの救いの手が届きませんでした。Amis d'Afrique は移動チームの発足を支援して増大する HIV / エイズ感染家族に対処し、かつ首都バンギの異なるセクションで活動するチームがこのように厳しい条件下で活動する能力を高めるのを支援し、さらには助けを必要としている人々に救いの手を差し伸べられるようにしました。

JSDF グラントの強み

このグラントは現在実施段階に入っています。Amis d'Afrique の高い専門家意識と優れたトレーニングは、人々が社会不安や難民の増大、HIV / エイズ感染者の急増といった新たな難題に対処するのに大きな力となりました。現地 NGO 同士の調整が進み、手強い敵を相手に闘うすべての組織の協力が強まっていることは、この JSDF グラントが効果を挙げていることの現われと言えるでしょう。

ブルガリア：児童育成・貧困地域支援プロジェクト

グラント額：105 万ドル

グラント受領機関／実施機関：労働・社会政策省

グラント目的：コミュニティ・ベースの児童育成プログラムを通じて、ブルガリアの不利な立場にある少数民族地域における児童の福祉改善、子供の遺棄減少、学校の成績の向上を達成すること。

2001 年度に承認されたブルガリア児童福祉プロジェクトは、実施を完了した最初の JSDF グラントの一つとして、終了時には「大変満足」という高い評価を得ました。プロジェクトは、社会の周辺に追いやられ不利な立場に立たされた少数民族地域の子供たちが社会の主流の教育システムにアクセスしやすくするために設計されました。少数民族の子供たちが教育を受けるのを妨げている主な障壁は、貧困とブルガリア語が話せないことによるものです。公用語を話すことができなかったために、少数民族の子供たちの大半は学校を中退するか、特殊学級のある学校に回されました。ロマ族の子供たちの就学率は全国平均を大幅に下回っています。

JSDF グラントの成果と影響

これらの障壁を克服するために、JSDF グラントは最貧地域の子供が通える保育園や幼稚園設立のプログラム用に現地の NGO にサブグラントを供与しました。グラントの資金は、子供たちに学校へ通う準備をさせ、ブルガリア語の能力を強化し、基本的な社会的スキルを育成することに使用されました。グラントは、特に貧しい子供たちのために基礎的な健康管理を行うと共に、食事や制服など小学校通学に関連した費用を負担することに充てられました。また、親やコミュニティの人々が勤労奉仕により幼稚園



Curt Carnemark (世界銀行)

の教室設備を修復するといった現地の活動を支援するためにも使われました。

このプロジェクトは、不利な立場に置かれたコミュニティの利益を図るための小規模なサブプロジェクトを評価・設計・促進・監督するためのコミュニティ・ベースの児童育成に資金を提供するものです。プロジェクトの進展に伴い、よりよい形での努力がプロジェクトに取り込まれるよう、モニタリングと評価のコンポーネントも設けられました。ほかにも、基礎調査、追跡調査、すべての実施現場における受益者評価、年2回の監査などがありました。

JSDF グラントの強み

当初、18件の児童育成サブプロジェクトが予定されていましたが、それらが実施され、その価値が実証されたので、JSDF 資金を使い尽くした時点で、ブルガリア政府は追加資金を投入し、最終的に56件の児童育成サブプロジェクトが実現しました。プロジェクトは、少数民族の子供たちが初等教育を受けやすくするとともに、少数民族地域の子供たちの健康状態を改善し、読み書きの能力と教育の価値および利点について親や家族の認識を高めるのに貢献しました。2年間で4102人の子供およびコミュニティの223人が恩恵を受けました。JSDF グラントの開発目的は達成されただけでなく、それ以上の効果を挙げたのです。人種問題の発生率が最も高く、中退率や施設に入る子供たちの割合が高い10の地方自治体のために入学準備トレーニング制が設けられました。

パイロット・プロジェクトで望ましい結果が得られたことから、政府は、全児童を対象に義務教育としての入学準備クラスを導入し、補助教員の職務記述書を承認し、2004年度の予算を確保し、入学準備トレーニング・プログラム案を作成しました。このJSDF グラントの成果として得られた教訓や成果は、世銀の資金によるほかのプロジェクトにも応用されました。

ガバナンスの仕組み



第4章

日本政府と世界銀行は JSDF を創設した際に、基金運営の指針となり、資金を透明かつ効率的に管理するための包括的なガバナンス構造を設定しました。

グラントの審査と承認

JSDF グラントのプロポーザルはまず技術審査官によって吟味され、国別担当局長とセクター・マネジャーによって確認されます。グラント・プロポーザルを審査するのは JSDF の創設時に設置された世銀 JSDF 運営委員会です。提出されたプロポーザルは最小限の手直しを加えた後に日本に送られるか、一旦タスクチームに戻し、修正後に再提出を求めるか、あるいは却下されます。運営委員会は JSDF の基準を満たしたプロポーザルを日本政府に提出し、最終承認を待ちます。日本政府（財務省）は申請されたプロポーザルを承認／却下するか、さらなる情報を求めます。日本政府の承認が得られた場合、世銀タスクチーム・リーダーは合意書に署名し、受領機関と世銀がグラント契約書に署名する前に、調達計画を提出します。

グラントの実施と報告

JSDF グラントを実施する際は、世銀の調達・財務管理ガイドラインに準拠しなければならず、この点では通常の世銀融資と同様です。グラントの実施期間は最長4年です。グラントを実施できるのは中央・地方政府、NGO・地域団体です。世銀タスクチームはグラントの進捗報告書を提出しなければなりません。この報告書の抄録は JSDF ウェブサイトで入手できます。

コミュニケーション

JSDF が供与したグラントの進捗状況を検討し、JSDF とグラントの全体的な目的が達成されていることを確認するために、世銀は年次報告書を作成し、日本政府に提出します。この報告書は JSDF ウェブサイトでも入手できます。さらに、世銀と日本政府は審査会議も開催します。この会議では、グラント・プロポーザルの検討と承認／処理について話し合われるほか、改善すべき点についても議論が行われます。

JSDF のウェブサイト

JSDF グラント・ファシリティの関連情報を提供するためにウェブサイト (<http://www.worldbank.org/jsdf>) が開設されました。ウェブサイトは世銀によって管理され、一般に公開されています。

付表 1 : 2003 年度に承認された JSDF グラント一覧

国 (グラントの種類)	グラント・プロポーザル名称	グラント額 (単位: ドル)	グラントの目的
第 9 次拠出			
カメルーン (C)	農村地域の資源評価基盤の強化	580,180	天然資源基盤、特に木材以外の林産物、聖なる森および伝統的な保護種の農村による持続可能な管理を達成する。
エチオピア (C)	牧畜地域支援グラント	1,960,000	エチオピア低地の貧しく弱い立場に置かれた牧畜社会への直接かつ需要主導の投資を促進することを目指すキャパシティ・ビルディング・プロセスを支援する。
インド (C)	インドの天然資源管理をめぐる紛争の解決	206,325	農村の貧しい人々の利益となるよう天然資源をより効率的に使用し持続可能な形で管理するためにコミュニティ・レベルで革新的かつ効果的な紛争解決活動を行えるようにする。
インドネシア (P)	教育を受けていない若者のための教育および雇用機会	1,106,950	雇用に関する教育を受けていない若者に校外教育を提供するためのコミュニティ・ベースの改善されたアプローチを設計・実施する。
モルドバ (P)	コミュニティ主導型の開発パイロット・プロジェクト	1,015,500	新しい / 革新的なタイプの社会的サービスを開発し、得られた教訓を生かして政府の政策開発部局に社会的介護サービスについての詳しい情報を提供する。
モンゴル (C)	持続可能な生計手段確保のためのコミュニティ動員	1,300,790	貧しく弱い立場に置かれたモンゴル農村部の人々の暮らし、安全性および持続可能性を向上させる。
パキスタン (P)	社会的に排除され弱い立場に置かれた人々のための革新的なスキームによる教育参加の促進	706,500	地方機関の介入を通じて、連邦政府管轄部族地域を含む特定の貧困地区において社会的に排除された人々の学校教育への参加を促進する。
サントメ・プリンシペ (C)	社会的サービスの改善を目指す市民参加およびコミュニティ主導型開発のためのキャパシティ・ビルディング	649,450	国家、シビル・ソサエティ、現地コミュニティが開発、実施、発展、モニタリング・プロセスで協力することにより、社会的サービスの効率性、影響および持続可能性を高めるための基礎を築き、そのアプローチをテストする。
スリランカ (P)	スリランカの極端に貧しい女性と少女たちのエンパワーメント	944,245	貧しく職がないため最も弱い立場に置かれた女性たちの知識と能力を強化し、彼女たちが所得創出のために小規模あるいは零細事業を立ち上げるのを支援する。

付表 1 : 2003 年度に承認された JSDF グラント一覧 (続き)

国 (グラントの種類)	グラント・プロポーザル名称	グラント額 (単位: ドル)	グラントの目的
第 10 次拠出			
カンボジア (P)	不利な立場に置かれた子供たちのための公教育	1,827,474	不利な立場に置かれた子供たちのための公教育を強化し、質の高い教育をさらに改善し、公立校管理の効率性を高める。
キルギス共和国 (P)	コミュニティ主導型村落投資のためのパイロット・プログラム	1,192,300	農村を支援する実現可能なアプローチを開発・テストし、現地で確認された貧困緩和の優先的ニーズに取り組み、また地方政府の能力を強化することにより貧しい農村のエンパワーメントを図る。
第 11 次拠出			
グアテマラ、ニカラグア、ホンジュラス (C)	中央アメリカ小規模農場主と特産コーヒー市場の結びつきを図る。	920,000	対象となる小規模農場主グループが輸入業者との長期契約を通じて特産品市場に生産物を販売することにより増収を図るのを支援する。
ペルー (C)	リマの迅速なエンパワーメント基金	1,179,000	基本的サービス提供や貧困の分析およびプロジェクト立案/管理の質を改善するとともに、地方自治プロセスへの貧しい住民の参加を促すために制度改革および行政改革を導入する。
スリランカ (C)	コミュニティ情報学習センターを通じた農村部貧困層のエンパワーメント	956,560	コミュニティ指導者のためのキャパシティ・ビルディング・プログラムを支援し、最も貧しい地方のコミュニティ情報センターを利用するための参加型方法を実施する。
ベトナム (P)	幼児期発育プログラム	1,910,800	最も貧しく最も弱い立場に置かれたコミュニティにおいて、環境、保健、教育サービスの改善を通じて幼児が潜在能力を十分発揮できる機会を提供するための再現可能な環境を確立する。
2003 年度合計	プロポーザル 15 件	16,456,074	

付表 2 : 2003 年度に承認された JSDF シード・グラント一覧

国	グラント・プロポーザル名称	グラント額 (単位：ドル)	承認年月日
イエメン	社会の周辺に追いやられた子供たちの主流教育制度への統合	39,600	8/14/2002
インドネシア	貧しいコミュニティにおける HIV / エイズとの闘い	43,850	8/20/2002
ガーナ、マリ	農村と世界市場の結びつき創出プロジェクト	50,000	8/22/2002
モルドバ	貧困層の司法へのアクセス強化	32,330	9/16/2002
コンゴ	再統合と回復のためのコミュニティの行動： 女性とストリート・チルドレンのニーズへの取り組み	45,000	9/26/2002
ナイジェリア	ナイジェリアにおいて政府の説明責任を強化するためのコ ミュニティ・ベースのモニタリング・評価システム	35,400	9/27/2002
マリ、 モーリタニア	法的支援の実施に関するシビル・ソサエティ組織のキャパシ ティ・ビルディング	48,000	10/17/2002
東アフリカ	コミュニティ・ベースの沿岸資源と持続可能性	45,000	12/23/2002
インドネシア	スマラン参加型流域管理	36,000	1/7/2003
インドネシア	参加型予算案編成およびモニタリングへのシビル・ソサエティ 組織と現地利害関係者の参画	29,400	2/8/2003
モルドバ	コミュニティ・ベースの土地および水の復旧	29,925	2/14/2003
ベトナム	コミュニティ・ベースの災害管理プロジェクト	45,200	2/21/2003
バングラデシュ	地方自治と説明責任の仕組み	39,350	3/25/2003
ウズベキスタン	コミュニティ・ベースの都市給水管理プロジェクト	25,565	3/25/2003
アルメニア	貧困世帯による公共暖房サービス提供への参加促進	35,700	3/29/2003
フィリピン	弱い立場に置かれたグループを全国貧困撲滅プログラムに参 加させるためのエンパワーメント	35,700	6/11/2003
カメルーン	農民組織プロジェクトへの制度開発支援	30,700	6/11/2003
エリトリア	貧民支援マルチセクター型コミュニティ・ベースの道路安全 システム開発	42,000	6/26/2003
2003 年度合計		688,720	プロポーザル 18 件

付表 3 : 2004 年度方針文書

日本社会開発基金

2004 年度方針のガイドラインおよびプログラムの配分

1. **目的**：革新的な社会プログラムにグラントを提供し、世銀グループ⁴ 適格国の貧困緩和を支援する。プログラムの下で承認されるグラントは、本ガイドラインで定められた基準に沿うものとする。

2. **重点分野**：JSDF グラントは、世銀の国別援助戦略（CAS）、貧困削減戦略（PRSP）、またはセクター戦略の貧困削減エレメントの開発目標と整合性があり、かつ世銀が資金を提供しているプロジェクトやプログラムを補完するものである。JSDF グラントが重点を置こうとしている活動は、(i) 最も貧しく、最も弱い立場に置かれた人々のニーズに直接対応する活動、(ii) 革新的な手法の実験を促す活動、(iii) 測定可能な成果を速やかに達成し、持続可能な活動に発展する可能性を備えたイニシアティブを支援する活動、(iv) コミュニティ、非政府組織（NGO）、およびその他のシビル・ソサエティ組織の主体性、能力向上、エンパワーメント、および参加を促進し、世銀が資金を提供するプロジェクトへの参加を促進する活動である。JSDF 資金の約 50% は、東、南および中央アジアの適格国に配分されるものとする。

3. **グラントの種類と適格性**：JSDF グラントには 2 つの種類がある。

(i) **プロジェクト向けグラント**：このグラントが支援するのは、(a) 貧困層に直接救済策を提供したり、貧困層向けのサービスや施設の改善を支援したり、ソーシャル・セーフティネットを強化／活性化したりする活動、または (b) 革新的な活動と新しいアプローチの試行（特に社会セクターを対象としたもの）とする。グラントの対象となるのは世銀グループ機関の加盟国のうち、2002 年度の「世界開発報告」で定義されている低所得国（一人当たり GDP が 1,435 ドル以下の国）とする。

(ii) **キャパシティ・ビルディング向けグラント**：このグラントが支援するのはキャパシティ・ビルディングや能力改善を目的としたもので、たとえば、実地訓練を通じて現地のコミュニティや NGO を強化したり、社会基金タイプの組織の能力または対象範囲を拡大したり、世銀が資金を提供するプロジェクトやプログラムにコミュニティと共に取り組んでいる現地政府を支援したりする活動である。2002 年度の「世界開発報告」で低所得および低中所得国と定義された国々が対象となる。

⁴ 世銀グループには、国際復興開発銀行、国際開発協会、国際金融公社が含まれる。以下、これらすべてを総称して世銀という。

4. 金額：JSDF グラントの額は5万ドルから200万ドルまでである。例外的な状況下で、かつCFPによる事前の承認が得られれば、300万ドルまでのグラント・プロポーザルを提出して検討を求めることができる。200万ドルを超えるプロポーザルは、JSDF 運営委員会によって、特に厳密に審査される。運営委員会は、プロポーザルに記載された活動の妥当性および実行可能性と共に、活動費が厳正なプロセスに沿って見積もられたものかどうかを検証するために、専門家の協力を得る場合もある。

5. ファンディング・プロポーザル：日本政府は既定のフォーマットに沿って作成された「ワンページ・ファンディング・プロポーザル」（世銀のシステムで入手できる）をもとに、グラント供与の可否を決定する。このプロポーザルには基本情報、グラントの全体的な開発目標、成果目標、支出分野などが記載される。世銀の関連統括部門がその活動のスポンサーとなり、タスクチーム・リーダー（TTL）を任命する。プロポーザルの内容は、国別担当局長が承認した国別援助戦略（CAS）の目標とセクター・マネージャーが承認したセクター・アプローチに沿ったものでなければならない。提出されたプロポーザルは業務担当副総裁室の信託基金調整官が検討した後、日本信託基金運営部門経由でJSDF 運営委員会に提出される。

6. 背景情報：グラントを申請する際は、ワンページ・ファンディング・プロポーザルに加えて、補足情報を含めた申請書を提出しなければならない。補足情報には、資金供与の対象となる活動の詳細、総合的な実施プラン、予想される成果、詳細な予算計画、申請者の適格性を審査するのに役立つ質問のチェックリストが含まれる。

7. チェックリスト：あらゆる問題を検討し、設定された質問項目のすべてに回答しなければならない。国内NGO、国際NGO（日本のNGOが望ましい）、およびシビル・ソサエティ組織との連携を促進するプロポーザルが優先される。

8. 対象となる支出：物品、小規模な土木工事、サービス、トレーニング、ワークショップなど。これらを調達する際は、世銀のガイドラインに準拠しなければならない。監査の費用も対象となる。コミュニティの参加やNGOとの連携を促進する場合に加え、通常管理予算で対応しきれない数の世銀職員が必要となる複雑な案件あるいは革新的な案件の場合は、世銀の増分費用（人件費など）を、グラント総額の5%を超えない範囲で、活動の準備・実施費用に含めることができる。

9. 対象とならない支出：次のような支出をJSDFの資金でまかなうことはできない。(i) 世銀が支援するプロジェクトとまったく関係のないパイロット・プログラム、(ii) 学術研究、(iii) 政府職員の給与、(iv) 海外研修または視察旅行、(v) 自動車の購入。⁵

⁵ プロポーザルに記載された理由に正当性があると認められたときは、自動車の購入が例外的に許可される場合がある。

10. スケジュール：JSDF 運営委員会は年 3 回、日本政府にプロポーザルを提出する（下記参照）。日本政府は、申請内容に納得した場合、プロポーザルを受領してから 4 週間以内に可否の決定を下す。日本政府が説明を求めた場合、プロポーザルの最終決定にさらに時間がかかることがある。

11. グラントの実施：グラントを実施するのはグラントの受領機関とする。グラントの受領機関となるのは、政府（中央政府、地方政府）、国際 NGO、現地 NGO、または現地の地域団体で、どの組織が受領機関となるかは、タスクチーム・リーダーが各組織の財務健全性、実績、およびグラント資金の利用・管理能力に基づいて決定する。受領機関あるいは実施機関が NGO または現地の地域団体である場合、中央政府あるいは地方政府が契約に同意することが必要となる。国連機関は JSDF グラントの受領機関となることはできない。⁶ グラントの実施期間は最大 4 年とする。グラントのタスクチーム・リーダーは、世銀の基準に基づき、グラントを監督する受託者責任を果たす。

12. 進捗報告：タスクチーム・リーダーは、年に一度「グラント状況報告」を作成し、その中で、グラント実施状態を評価し、成果物の完了に加えコンサルティング・サービスなどグラント資金投入による資源の取得状況を記録する責任を負う。さらに、完了時には「最終進捗報告書」を作成し、グラント実施期間中に投入された資源の総量と成果を記載する。

13. 資金の再配分（支出分野）：グラント資金は次のような形で再配分される。

(i) グラント資金の 30% までを承認済みの支出分野に再配分する場合でグラント契約の修正が必要なとき、タスクチーム・リーダーは法務局および融資局の助言を求めなければならない（受領機関が実施機関を務めるグラントの場合）。CFP（譲許性資金・グローバルパートナーシップ総局）に申請書を提出する必要はない。

(ii) 資金を新規の適格支出分野に再配分する場合（上記参照）、国別担当局長に承認申請書を提出しなければならない。この申請書は CFP、法務局、および融資局の承認を得なければならない（受領機関が実施機関を務めるグラントの場合）。再配分が CFP によって決定されたグラントの相当部分に及ぶ場合、世銀は日本の承認を求めることができる。

(iii) グラント資金の 30% を超える額を承認済みの支出分野に再配分する場合は、CFP に承認申請書を提出して承認を得なければならない。再配分が CFP によって決定されたグラントの相当部分に及ぶ場合は、世銀は日本の承認を求めることができる。

⁶ 世銀ガイドラインに従って選ばれた場合、国連機関もコンサルタントとして JSDF グラントの活動に参加することができる。

14. グラントのコンポーネントあるいはプロジェクトの範囲の変更：グラントのコンポーネントを変更する場合は、下記のような修正／承認が必要かどうかを法務局に確認しなければならない。

(i) グラントの対象となる活動に小幅な変更（予算に計上されたコンポーネント額の30%までの変更）を加える場合、タスクチーム・リーダーは法務局に契約書の修正が必要かどうかを問い合わせる。CFPに申請書を提出する必要はない。

(ii) グラントコンポーネントに大幅な変更を加える場合は、国別担当局長とセクター・マネージャーに申請書を提出し、承認を得なければならない。この申請書はCFPと法務局の承認を得なければならない。大幅な変更とは、(a) コンポーネント額の30%を超える変更、あるいは(b) 新しいコンポーネントの追加を意味する。グラントの開発目標を大幅に変更する場合は、CFPに申請書を提出し、CFPは日本政府の承認が必要かどうかを確認する。日本政府はCFPから申請書を受け取ってから4週間以内に、承認または却下の判断を下す。修正事項はCFP、法務局、および融資局の承認と、国別担当局長の承認を得なければならない。

15. 取消条項：下記の場合、グラントは中途であっても取消の対象となる。

(i) グラントの正式な承認日から12カ月たってもグラント契約に署名が行われなかった場合、または(ii) グラント契約への署名から6カ月たってもグラントが実施されなかった場合（支出が一切なかった場合を含む）。(i) と (ii) の例外措置の適用を希望する場合は、CFPに申請書を提出しなければならない。

16. 認知度向上：プロポーザルの提出時およびグラントの承認が得られた後にプロポーザルについて日本大使館に通知することが望ましい。事前の情報共有は、グラント承認プロセスの促進に役立つ。世銀は、JSDF 契約の署名式典を、日本大使館職員の臨席のもとで、現地で開催することを奨励もしている。また、現地の世銀職員が国内外の報道関係者をこのような式典に招待することも奨励している。署名式典を開催する場合、職員は式典の少なくとも10日前にCFPにその旨を連絡しなければならない。また、世銀も JSDF 年次報告の広範囲にわたる継続的配布、関連する世銀文書への JSDF 情報の記載、日本の NGO と民間セクターを対象としたセミナーの開催などを通して、JSDF の認知度向上に努めていく。

17. 文書の管理：業務担当の各部門は、世銀の事務管理方針と手続きに従って、JSDF グラントに関する文書（委任事項、コンサルタント契約書、コンサルタントが作成した報告書、状況報告書など）を管理する。

2004 年度のスケジュール予定

告示	日本への提出
第 13 次： 2003 年 10 月	2003 年 12 月
第 14 次： 2003 年 10 月	2004 年 2 月
第 15 次： 2004 年 2 月	2004 年 5 月

付表 4 : 2001 ~ 2003 年度の JSDF グラント地域別配分

地域	年度	グラント 件数	グラント額 (単位：ドル)
東アジア・大洋州	01	16	19,347,600
	02	6	6,720,889
	03	4	6,146,014
	小計	26	32,214,503
南アジア	01	4	2,483,323
	02	3	3,116,036
	03	4	2,813,630
	小計	11	8,412,989
ヨーロッパ・中央アジア	01	5	3,036,500
	02	7	10,259,875
	03	2	2,207,800
	小計	14	15,504,175
中東・北アフリカ	01	2	574,435
	02	1	994,860
	03	0	0
	小計	3	1,569,295
ラテンアメリカ・カリブ海	01	2	3,590,575
	02	3	4,027,800
	03	2	2,099,000
	小計	7	9,717,375
アフリカ	01	4	3,886,780
	02	1	973,949
	03	3	3,189,630
	小計	8	8,050,359
JSDF グラントの合計	01	33	32,919,213
	02	21	26,093,409
	03	15	16,456,074
合計		69	75,468,696